

関連年表

(→数字 は関連するテーマ番号を表す)

西暦	和暦	出来事
約 30,000 年前		愛鷹山麓の人々が石器や石斧を使い生活(県内で確認できる最古の生活跡) (→1)
約 27,000 年前		愛鷹・箱根山麓で動物の落とし穴とも考えられる深く大きな穴を掘る (→1)
約 14,000 年前		浜北人が生活 (→原始・古代概説)
約 12,000 年前		各地で縄文土器の使用が始まる
約 11,000 年前		芝川町の大鹿窪遺跡で定住集落が営まれる (→1)
約 4,500 年前		伊豆市の上白岩遺跡に墓やまつりの場とされる環状列石が残される (→3)
約 4,500 年前		県西部に浜松市の蜷塚遺跡などの貝塚が形成される (→2)
約 3,000 年前		川根本町の上長尾遺跡で遮光器土偶を用いたまつりが行われる (→3)
紀元前後		倭、小国分立
AD 57		倭の奴国王、後漢に入貢。印綬を受ける
1C後半		県内の沖積平野で稲作が本格的に始まる (→4)
107		倭の国王帥升らが後漢に入貢し、生口を献上
2C後半		天竜川下流域から浜名湖北岸で銅鑿のまつりが盛んになる。中東部では、鳥形木製品などが作られ、水稲耕作にかかわるまつりが行われる (→3)
2~3C		静岡市の登呂遺跡が営まれる (→4, 60)
239		邪馬台国の卑弥呼が魏に遣使
4C後半		磐田市の松林山古墳、静岡市の谷津山古墳などの大型前方後円墳築造 (→5, 6) 富士市の浅間古墳(前方後方墳)築造 (→5)
5C前半		磐田原台地の兜塚古墳(円墳)築造 (→5)
5C中頃		磐田原台地の堂山古墳(前方後円墳)築造 (→5)
478		倭王武、宋に遣使・上表 (→6)
5C後半		県西部に袋井市五ヶ山古墳など武器・武具を豊富に副葬する古墳現れる (→5)
527		筑紫国造磐井の乱 (→6)
6C後半		静岡市の賤機山古墳築造 (→5)
6C後半		この頃から、各地に群集墳が営まれる (→5)
607	(推古15)	遣隋使を派遣する
645	大化1	蘇我入鹿暗殺
646	大化2	改新の詔
660	(斉明6)	唐・新羅が百済を滅ぼす (→7)
661	(斉明7)	斉明天皇、百済救援のため朝倉宮へ。朝倉宮で崩御 (→7)
663	(天智2)	白村江の戦いに廬原君臣が参戦 (→7, 10)
667	(天智6)	近江大津宮に遷都 (→7)
672	(天武1)	壬申の乱 (→7) 飛鳥浄御原宮を造る
676	(天武5)	天武天皇が諸国に放生をさせる(「放生」の初見) (→8)
685	(天武14)	伊場遺跡出土の木簡に御調、「私部の政を負う」等の記事がある (→8)
694	(持統8)	藤原京遷都
697	(文武1)	この年から放生会を国家的行事として全国一斉に行う (→8)
701	大宝1	大宝律令完成 (→8, 9, 10, 11)
702	大宝2	持統上皇、三河国を中心に東海地方へ行幸。その後没 (→8)

709	和銅2	遠江国長田郡を長上、長下の2郡に分割 (→9)
710	和銅3	平城京遷都
722	養老6	遠江国佐益郡の8郷を割き山名郡を置く (→9)
723	養老7	三世一身法定める
724	神亀1	伊豆国が遠流の国となる (→12)
729	天平1	長屋王の変
730	天平2	大宰府に出す防人を一時停止 (→10)
737	天平9	藤原四兄弟没
740	天平12	藤原広嗣の乱
741	天平13	国分寺建立の詔下される
743	天平15	墾田永年私財法定める (→14) 大仏造立の詔下される
750	天平勝宝2	東大寺大仏に駿河国産出の金を献じる (→29)
755	天平勝宝7	この年に提出された防人の歌が『万葉集』に収められる (→10)
757	天平宝字1 (781~783 ころ)	防人の東国からの徴発停止 (→10) このころ『万葉集』が完成
790	延暦9	蝦夷征討のため、革甲2000領を東海道の駿河以东と東山道の信濃以东の諸国に作らせる (→10)
794	延暦13	平安京遷都
810	弘仁1	葉子の変
832	天長9	伊豆国の三島神・伊古奈比咩神を名神とする (→11)
838	承和5	伊豆国の神津島が噴火 (→11)
840	承和7	遠江国周智郡小国天神・磐田郡矢奈比売天神を従五位下とする (→11) 神津島の阿波神・物忌奈乃命を従五位下とする (→11)
842	承和9	承和の変。承和の変で伊豆国配流となった橘逸勢が、途中の遠江で死去 (→12)
850	嘉祥3	橘逸勢に正五位下を追贈 (→12) 伊豆国の伊古奈比咩神・阿波神・物忌奈乃神を従五位上とする (→11)
858	天安2	藤原良房、事実上の摂政となる
866	貞観8	応天門の変で伴善男が伊豆へ流される。藤原良房、正式に摂政となる (→12)
868	貞観10	伊豆に流された伴善男が死去 (→12)
872	貞観14	貞観寺田地目録帳が作成される (→14)
894	寛平6	遣唐使派遣中止、以後廃絶
902	延喜2	延喜の荘園整理令
927	延長5	延喜式が完成する (→9, 11)
935	承平5	平将門の乱始まる (→13)
938	天慶1	平将武の追捕を駿河・伊豆・甲斐・相模の4か国に命じる太政官符が下される (→13)
939	天慶2	藤原純友の乱始まる
956	天曆10	駿河国の国司と郡司に帯剣を許可 (→13)
969	安和2	安和の変
1017	寛仁1	藤原道長、太政大臣に。藤原頼通、摂政に就任。
1051	永承6	前九年合戦始まる
1083	永保3	後三年合戦始まる
1086	応徳3	白河上皇が院政を開始
1156	保元1	保元の乱(敗れた源為朝が伊豆大島に流される) (→12)
1159	平治1	平治の乱
1160	永暦1	平治の乱で敗れた源頼朝を伊豆へ配流 (→12)
1167	仁安2	平清盛、太政大臣となる
1170	嘉応2	池田荘、藤原俊盛から松尾社へ寄進 (→14)

1171	承安 1	池田荘の立券文作成 (→14)
1180	治承 4	治承・寿永の内乱が始まる(→中世概説)
1184	元暦 1	源頼朝が問注所を設置 (→17)
1185	文治 1	源頼朝が駅路の法を定め、伊豆・近江間に伝馬と食料を支給 (→18)
1192	建久 3	源頼朝が征夷大将軍になる (→15)
1193	建久 4	富士の巻狩において曾我兄弟の仇討ち (→15) 源範頼(頼朝の弟)が伊豆国で誅殺される (→15)
1200	正治 2	梶原景時が討伐され、駿河国狐崎で敗死
1204	元久 1	源頼朝が伊豆国修禅寺で殺害される
1221	承久 3	承久の乱 承久の乱後、六波羅探題が設置される (→17)
1222	貞応 1	遠江の御家人内田氏が承久の乱の勲功により、石見国に地頭職を得る (→16)
1223	貞応 2	この頃『海道記』が書かれる (→18)
1232	貞永 1	御成敗式目(貞永式目)制定(→中世概説)
1242	仁治 3	この頃『東関紀行』が書かれる (→18)
1249	建長 1	宇津谷郷今宿の傀儡の訴訟判決 (→17) 裁判の迅速化を図るため、幕府に引付が設置される (→17)
1274	文永 11	一遍が諸国の遍歴を始める (→18) 文永の役 (→18)
1280	弘安 3	この頃『十六夜日記』が書かれる (→18, 23)
1281	弘安 4	弘安の役 (→18)
1282	弘安 5	一遍が静岡県下を遊行 (→18)
1285	弘安 8	霜月騒動で安達泰盛一族滅亡
1293	永仁 1	幕府が鎮西探題を設置する (→17)
1297	永仁 5	永仁の徳政令
1314	正和 3	内田荘の和与中分の関東下知状 (→16)
1333	元弘 3	鎌倉幕府滅亡
1334	建武 1	建武の新政
1335	建武 2	中先代の乱、箱根・竹之下の戦い (→19)
1336	建武 3	足利尊氏が沼津郷を曾我時助に与える (→15)
	延元 1	
1338	暦応 1	足利尊氏が征夷大将軍になる (→19)
	延元 3	
1350	観応 1	観応の擾乱 (→1352) (→21)
	正平 5	
1352	文和 1	近江・美濃・尾張に半済令 (→21)
	正平 7	
1368	応安 1	足利義満が第3代将軍となる (→19)
	正平 23	
1371	応安 4	九州探題に今川了俊が赴任
	建徳 2	
1391	明德 2	蒲御厨が足利義満によって東大寺に寄進される (→21)
	元中 8	
1392	明德 3	南北朝の合一
	元中 9	
1401	応永 8	足利義満が第1回遣明船を派遣する
1416	応永 23	上杉禪秀の乱 (→20)
1423	応永 30	東大寺領荘園の蒲御厨で守護使が狼藉 (→21)
1428	正長 1	足利義持が死去 (→20) 正長の徳政一揆 幕府が武田信重に沢田郷と佐野郷を与える (→20)
1432	永享 4	足利義教が富士山遊覧
1438	永享 10	永享の乱 (→20)
1440	永享 12	結城合戦 (→20)

1441	嘉吉 1	嘉吉の変で將軍足利義教が暗殺される
1454	享徳 3	享徳の乱始まる (→20)
1456	康正 2	引間市(浜松)で徳政一揆 (→21)
1467	応仁 1	応仁の乱始まる(→中世概説)
1495	明応 4	この頃大内氏掟書(大内氏壁書)制定 (→22)
1498	明応 7	遠江国大地震で浜名湖が外海と通じる
1526	大永 6	今川仮名目録制定(1553年に追加21か条) (→22)
1536	天文 5	塵芥集制定 (→22)
1543	天文 12	鉄砲伝来
1556	弘治 2	結城氏新法度制定 (→22)
1560	永祿 3	桶狭間の戦いで今川義元が討死
1566	永祿 9	富士山本宮浅間大社門前の市が楽市となる (→24)
1567	永祿 10	六角氏式目制定 (→22)
1569	永祿 12	徳川家康が、見付に秤座の制を定める (→23)
1570	元亀 1	徳川家康が岡崎城から浜松城に移る
1572	元亀 3	武田軍が見付を攻略 (→23) 三方原の戦いで徳川家康が武田信玄に敗れる
1577	天正 5	後北条氏の家臣富永氏によって土肥金山の開発 (→29)
1582	天正 10	天目山の戦いで武田氏が滅亡 本能寺の変
1585	天正 13	羽柴秀吉が関白となる
1586	天正 14	豊臣秀吉が関東惣無事令を出す(→25) 徳川家康が浜松城から駿府城に移る
1589	天正 17	後北条氏の家臣猪俣邦憲が、惣無事令に反して、名胡桃城を攻略 (→25) 静岡県下で豊臣秀吉の禁制が発給されるようになる (→25)
1590	天正 18	天正遣欧使節に同行したヴェリニャーニにより活版印刷術が伝わる (→26) 豊臣秀吉の小田原攻め (→25)
1592	文祿 1	文祿の役
1597	慶長 2	慶長の役
1600	慶長 5	オランダ船リーフデ号が漂着し、ウィリアム＝アダムズが来日 関ヶ原の戦い(→近世概説)
1601	慶長 6	徳川家康が東海道宿駅を設定(→近世概説) 大久保長安が伊豆・石見・佐渡銀山の支配を命じられる (→29)
1603	慶長 8	徳川家康が征夷大将軍となる(→近世概説)
1604	慶長 9	糸割符制度始まる (→26)
1605	慶長 10	徳川家康が秀忠に將軍職を譲り大御所となる (→26)
1606	慶長 11	大久保長安が伊豆金山奉行となる (→29)
1607	慶長 12	大御所となった徳川家康が駿府に移る (→26)
1609	慶長 14	駿府糸割符が始まる (→26)
1614	慶長 19	徳川家康が『大蔵一覽集』の出版を命じる(1615年、「駿河版銅活字」を使って出版) (→26)
1615	元和 1	徳川家康が『群書治要』の出版を命じる(1616年、「駿河版銅活字」を使って出版) (→26) 大坂夏の陣 武家諸法度・禁中並公家諸法度の発布 (→26)
1616	元和 2	徳川家康が死去し、久能山に埋葬される (→26) 今村重長が下田御番(のちの下田奉行)に任じられる (→27)
1617	元和 3	吉川氏法度制定 (→22)

1618	元和4	箱根宿の開設 (→28)
1619	元和5	菱垣廻船の登場 (→27)
1637	寛永14	島原の乱(→26)
1641	寛永18	平戸のオランダ商館を長崎の出島に移す
1643	寛永20	田畑永代売買禁令
1651	慶安4	由井正雪の乱
1657	明暦3	明暦の大火 (→30)
1660	万治3	伊豆半島横断の商品輸送が禁止され、下田湊の廻船曳航の引船料規定が定められる (→27)
1666	寛文6	深良用水着工 (1670年に完成) (→31)
1670	寛文10	伊豆半島を横断する商品輸送路について伊豆の名主らが訴状を提出 (→27)
1680	延宝8	江戸町人の請負で箱根に石道が完成 (→28)
1687	貞享4	幕府が町人請負新田の開発を禁止 (→31)
1691	元禄4	ケンペルが長崎から江戸へ行く (→33)
1695	元禄8	元禄の貨幣改鑄 (→29)
1698	元禄11	勘定奉行荻原重秀の建議により「元禄の地方直し」が始まる (→30)
1707	宝永4	宝永地震と富士山噴火
1711	正徳1	新井白石が朝鮮通信使の待遇を改める(→34)
1714	正徳4	正徳の貨幣改鑄 (→29)
1716	享保1	徳川吉宗による享保の改革始まる
1720	享保5	下田にあった番所が浦賀に移転(→27)
1736	元文1	元文の貨幣改鑄 (→29)
1739	元文4	浜松塩町の間屋が専売圏に関する訴訟を起こす (→36)
1772	安永1	相良藩主の田沼意次が老中に就任
1782	天明2	天明の飢饉始まる
1787	天明7	寛政の改革始まる (→37)
1789	寛政1	葦山代官から燈油の原料となる植物を植えるように触が出る (→37)
1791	寛政3	林子平の『海国兵談』刊行 (→38)
1793	寛政5	松平定信が伊豆の海岸を巡視 (→38)
1800	寛政12	伊能忠敬が蝦夷の測量を開始 (→38)
1801	享和1	伊能忠敬が伊豆の測量を行う (→37, 38)
1802	享和2	『東海道中膝栗毛』の初編が刊行される (→37)
1815	文化12	2回目の伊豆測量 (→38)
1817	文化14	水野忠邦が浜松藩主となる
1818	文政1	文政の貨幣改鑄(文政小判改鑄は1819年) (→29)
1822	文政5	大蔵永常が『農具便利論』を刊行 (→32) 日本で初めてコレラが流行(→46)
1825	文政8	異国船打払令
1826	文政9	シーボルトが長崎から箱根を通り江戸へ行く (→28, 33)
1828	文政11	シーボルト事件で、シーボルトが国外追放となる (→33)
1830	天保1	大規模な伊勢参宮(「お蔭参り」)が起きる (→41)
1832	天保3	シーボルトの『日本』、刊行が開始される (→33)
1833	天保4	天保の飢饉 (→39)
1834	天保5	大蔵永常が『綿圃要務』を刊行、田原藩の興産方となる (→32)
1836	天保7	志太郡・益津郡などで打ちこわし (→39)
1837	天保8	大塩平八郎の乱
1839	天保10	モリソン号事件 (1837)の批判により渡辺華山らが罰せられる (→32)

1841	天保12	水野忠邦による天保の改革 (→1843)
1851	嘉永4	天保の改革で解散されていた株仲間の再興令が出される (→35)
1853	嘉永6	ペリーが浦賀に来航
1854	安政1	日米和親条約 安政東海地震により、下田に停泊していたブチャーチンのディアナ号が大破
1858	安政5	安政の五カ国条約、コレラの流行 (→46)
1859	安政6	貿易の開始。横浜港から茶の輸出も始まる (→40, 53) 『広益国産考』全8巻刊行 (→32)
1860	万延1	桜田門外の変
1861	文久1	和宮降嫁に伴い、箱根石畳の大補修が行われる (→28)
1862	文久2	坂下門外の変
1863	文久3	八月十八日の政変
1864	元治1	禁門の変、第一次長州征討 (→40)
1865	慶応1	第二次長州征討宣言 (→40)
1867	慶応3	「ええじゃないか」が広がる (→41) 大政奉還 (→42)
1868	明治1	戊辰戦争で遠州報国隊や駿州赤心隊が官軍に呼応 (→43) 徳川家達が駿遠70万石を与えられ、旧幕臣が静岡へ移住(無禄移住) (→42) 府中学問所(のちの静岡学問所)開設(→42) 草薙神社神主の暗殺未遂事件 (→43)
1869	明治2	陸軍学校(沼津兵学校)開校 (→42) 版籍奉還により、徳川家達が静岡藩知事に任命される 東京招魂社が建立され、報国隊や赤心隊に所属していた神主らが社司に任命される (→43) 牧之原の開墾が始まる (→28, 42)
1870	明治3	中村正直訳『西国立志編』が静岡で刊行開始 日本初の日刊新聞である『横浜毎日新聞』創刊 (→47)
1871	明治4	徒歩渡りだった大井川で渡船が開始される (→28, 42) 廢藩置県により静岡藩が消滅、静岡県・浜松県・足柄県が置かれる(→近現代概説)
1872	明治5	田畑永代売買禁令の廃止 (→49) 地券交付事業に関し告諭 (→44)
1873	明治6	徴兵令の制定、第1回徴兵検査 (→45) 静岡県で初めて発行された新聞である『(官許)静岡新聞』が発行される (→47) 地租改正条例(→近現代概説, 44)
1874	明治7	民撰議院設立建白書の提出により、自由民権運動が始まる(→近現代概説)
1875	明治8	新聞紙条例による言論統制 (→47) 牧之原開拓の相互融資を目的とした苟美館設立 (1876年に解散) (→42)
1876	明治9	浜松県民会発足 (→44) 伊豆国を静岡県に編入、浜松県を静岡県に併合。現在の静岡県となる (→44)
1877	明治10	西南戦争、コレラが発生 (→46)
1879	明治12	演説結社の参同社が結成される(→48) 『函右日報』創刊 (→47) 東京招魂社が靖国神社と改称される (→43) 徴兵令の改正(免役規定の制限) (→45)
1880	明治13	愛国社第4回大会で国会期成同盟設立 (→48)

1881	明治 14	集会条例による言論統制 (→48, 49) 磯部物外らが「国会開設建白書」を提出 (→48) 前島豊太郎舌禍事件 (→48) 開拓使官有物払下げ事件から明治十四年の政変へ(→48) 松方財政が始まり、松方デフレとなる (→42, 49, 52) 国会開設の勅諭。静岡県立憲改進黨が結成される (→48)
1882	明治 15	岳南自由党が結成される (→48) 県内でコレラが大流行 (→46) 丸山教が大流行を始める (→49) 福島事件 (→49)
1883	明治 16	徴兵の代人制を廃止 (→45)
1884	明治 17	東海道への鉄道誘致に関する建議(→50) 秩父事件 (→49)
1885	明治 18	『静岡大務新聞』と『東海暁鐘新報』の間で女子参政論争 (→47) 内閣制度が創設され、伊藤博文が初代首相となる
1886	明治 19	静岡事件 (自由民権運動最後の激化事件) (→49)
1887	明治 20	大同団結運動(→54)
1889	明治 22	徴兵制の大改正 (→45) 大日本帝国憲法の公布 東海道線の開通 (→50, 51, 52) 王子製紙の気田工場が操業開始 (→52)
1894	明治 27	日清戦争始まる
1895	明治 28	下関条約
1897	明治 30	貨幣法実施 (金本位制の開始) (→57) 伝染病予防法公布により、避病院の建設が推進される (→54) 清水港が開港外貿易港の指定を受け、1899 年の開港後、茶輸出の中心となる (→53)
1898	明治 31	憲政党が結成され、隈板内閣が成立 (→54)
1900	明治 33	治安警察法制定 立憲政友会が結成される
1902	明治 35	避病院建設の補助金をめぐって中遠疑獄事件が起きる (→54) 日英同盟締結
1904	明治 37	日露戦争で静岡連隊・豊橋連隊も出兵 (→55)
1905	明治 38	ポーツマス条約に反対して、日比谷焼打ち事件など反対運動が起きる (→55)
1909	明治 42	新聞紙法による言論統制 (→47)
1910	明治 43	韓国併合
1912	大正 1	第一次護憲運動起きる
1914	大正 3	第一次世界大戦で静岡・浜松連隊が青島へ派遣される
1917	大正 6	静岡市で普通選挙期成同盟会が結成される (→56) ロシア革命で、ソビエト政権樹立を宣言
1918	大正 7	米騒動が県下でも起きる (→56)
1919	大正 8	ベルサイユ条約
1923	大正 12	関東大震災で県内も被害
1924	大正 13	第二次護憲運動起きる 静岡鉄工労働組合の結成 (→56)
1925	大正 14	県立葵文庫 (現在の県立中央図書館) 開館 治安維持法・普通選挙法制定 (→56)

1926	昭和 1	鈴木織機争議や日本楽器争議 (労働運動) が起きる (→56) 自作農創設維持補助規則の公布 (→58) 全国で初めての普通選挙となる浜松市議選挙が行われる (→56) 浜松工業高校 (現静岡大学) の高柳健次郎が世界で初めてブラウン管に「イ」の字を写す
1927	昭和 2	金融恐慌 (→57)
1929	昭和 4	アメリカの株式市場が暴落し、世界恐慌が始まる (→57)
1930	昭和 5	昭和恐慌始まる (→57)
1931	昭和 6	満州事変 犬養毅内閣の下、高橋蔵相による金輸出再禁止で管理通貨制度になる (→57)
1932	昭和 7	五・一五事件
1936	昭和 11	二・二六事件で高橋是清らが暗殺され、興津の坐漁荘にいた西園寺公望も避難 (→57)
1937	昭和 12	日中戦争始まる
1938	昭和 13	農地調整法により農業統制とともに自作農創設も意図される (→58)
1939	昭和 14	第二次世界大戦始まる
1941	昭和 16	太平洋戦争始まる
1943	昭和 18	金山整備令が出される(→29) 軍需工場建設工事で登呂遺跡が発見される (→60) 皇国標準農村に富岡村等 7 か村が指定される (→58)
1945	昭和 20	浜松大空襲・静岡大空襲などを経て終戦
1946	昭和 21	庶民大学三島教室開校 (→59) 第二次農地改革始まる (→58) 日本国憲法の公布 (→59)
1947	昭和 22	登呂遺跡の本格的な発掘調査開始 (→60)
1949	昭和 24	1946 年に発見された岩宿遺跡の本格的な発掘調査(→原始・古代概説)
1951	昭和 26	サンフランシスコ講和条約調印
1954	昭和 29	第五福竜丸事件
1956	昭和 31	日本が国際連合に加盟
1960	昭和 35	日米新安全保障条約
1964	昭和 39	東海道新幹線開業・東京オリンピック
1967	昭和 42	藤原宮跡から「評」の記載がある木簡が出土 (→9)
1982	昭和 57	静岡県が中国浙江省と友好提携
1984	昭和 59	磐田市の一の谷中世墳墓群発掘調査開始 (→23)
1985	昭和 60	『静岡県史』編さん事業始まる (～1998)
1999	平成 11	登呂遺跡の再発掘調査 (→60)
2000	平成 12	敷地西の谷遺跡であらたな銅鐸が発見される (→3)
2001	平成 13	芝川町大鹿窪遺跡で堅穴住居跡が発見される (→1)

この年表は、『静岡県史』通史編 7 年表や本書本文の記載等を参考に作成した。
改元のあった年の日本年号は、新しい年号で記した。年号のない時代は天皇名を日本年号欄に記した。